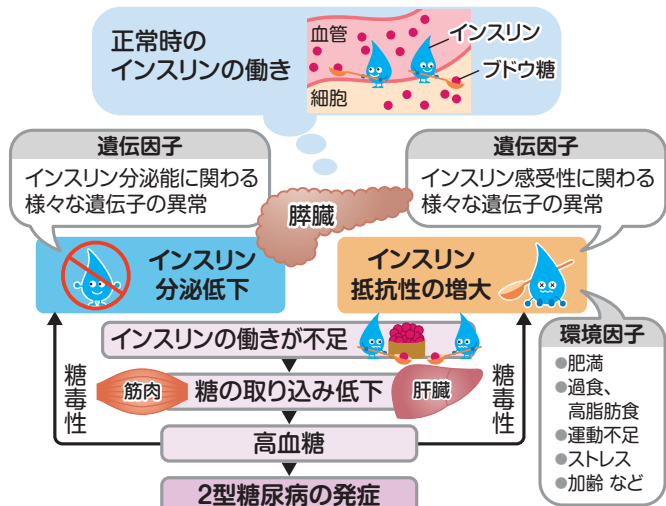


糖尿病とは？ 三大合併症とは？

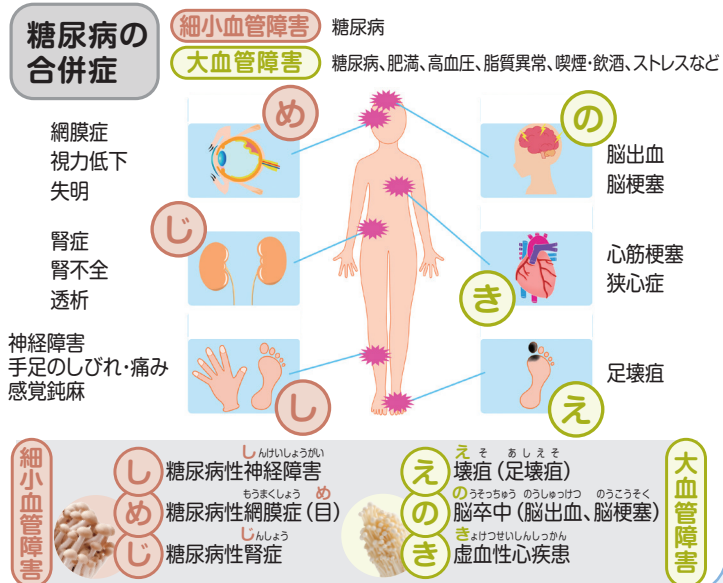
糖尿病とは **インスリン分泌が低下する（インスリン分泌低下）**、もしくは **インスリンは分泌されるが効きにくくなる（インスリン抵抗性増大）** などのインスリン作用不足によって細胞に糖が正常に取り込めなくなり、血液中のブドウ糖の値（血糖値）が慢性的に高くなる病気である。



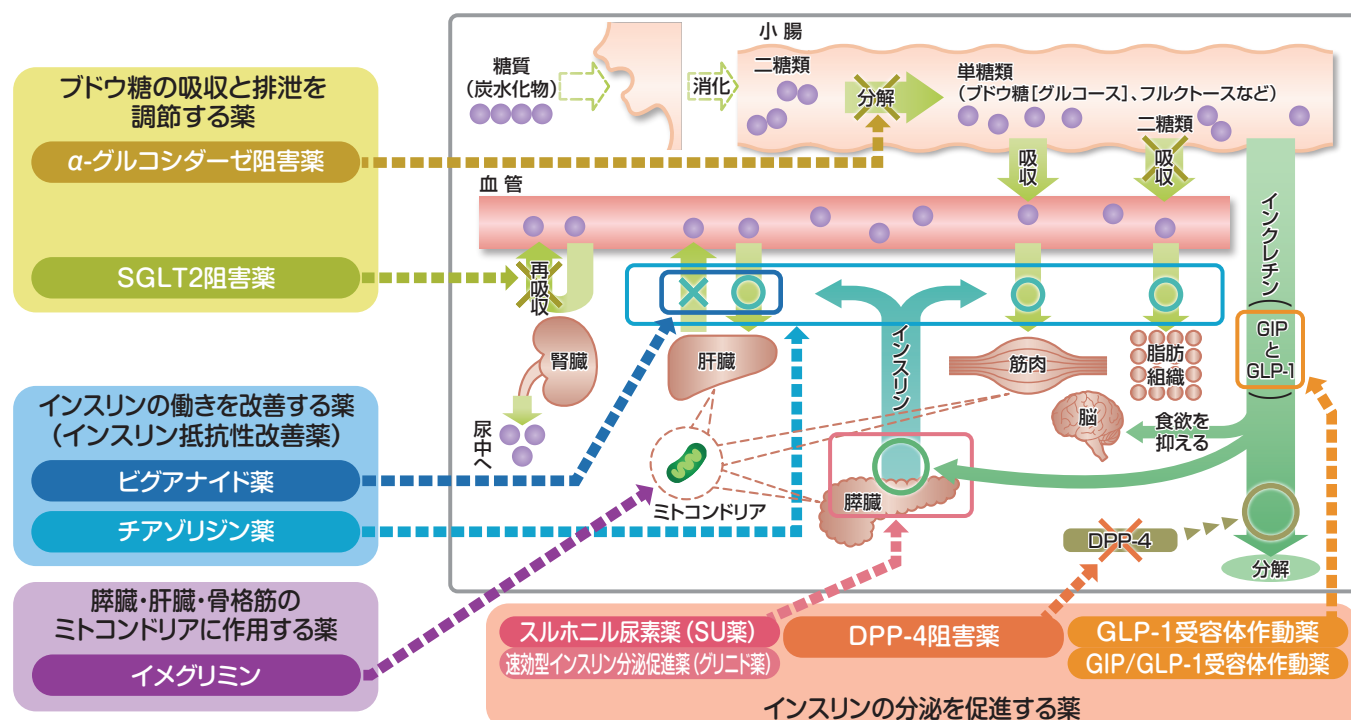
■：インスリン分泌低下 ■：インスリン抵抗性

- 2型糖尿病の発症には、**インスリン分泌低下**と**インスリン抵抗性**が関与しており、ともに複数の遺伝子によって決定されている。
- さらに、**インスリン抵抗性**には主に生活習慣に起因する環境因子も大きく関与している。
- **インスリン分泌低下**と**インスリン抵抗性**の関与の程度は一人一人異なる。

高血糖となっても、初期は無症状のこともあるが、そのまま適切な管理をせず放置すると、著しくQOLを低下させる合併症が生じたり、虚血性心疾患（心筋梗塞や狭心症など）などのリスクが高まったりする。合併症のなかでも「**神経障害**」「**網膜症**」「**腎症**」は、**三大合併症**と呼ばれる。



糖尿病治療薬の作用のしくみ



2型糖尿病治療薬一覧 (インスリン製剤を除く)

分類	薬のはたらき	一般名	主な副作用
インスリン分泌非促進系	α-グルコシダーゼ阻害薬 糖質の消化過程の中で、二糖類から単糖類（ブドウ糖など）への分解を抑制することによって、血液中へのブドウ糖の吸収をゆるやかにします。	☐ アカルボース ☐ ボグリボース ☐ ミグリトール	お腹が張る、おならが出る、下痢、肝障害 等
	SGLT2阻害薬 ブドウ糖の尿から血中への再吸収を抑制することによって、血液中の糖を尿中に排出します。	☐ イブラグリフロジン ☐ エンパグリフロジン ☐ カナグリフロジン ☐ ダパグリフロジン ☐ トホグリフロジン ☐ ルセオグリフロジン	頻尿・多尿、脱水、尿路感染症、性器感染症 等
	ビグアナイド薬 インスリンの働きが悪くなっているのを改善します。(主に肝臓)	☐ メトホルミン	下痢、胃腸障害、乳酸アシドーシス 等
	チアゾリジン薬 インスリンの働きが悪くなっているのを改善します。(肝臓や筋肉、脂肪組織)	☐ ピオグリタゾン	むくみ、心不全、体重増加、肝障害 等
インスリン分泌促進系	イメグリミン 膵臓・肝臓・骨格筋のミトコンドリアに作用して、インスリンの分泌促進やインスリンの働きが悪くなっているのを改善します。	☐ イメグリミン	悪心、下痢、便秘 等
	スルホニル尿素薬 (SU薬) 膵臓に作用してインスリンの分泌を促進します。	☐ グリクラジド ☐ グリベンクラミド ☐ グリメピリド	低血糖、体重増加 等
	速効型インスリン分泌促進薬 (グリニド薬) 「スルホニル尿素薬」より「速効型インスリン分泌促進薬」の方が、作用の発現が早く、作用の持続時間が短くなっています。	☐ ナテグリニド ☐ ミチグリニド ☐ レパグリニド	
	DPP-4阻害薬 DPP-4の阻害により、インクレチンの分解を抑制することによって、血糖に応じて膵臓からのインスリンの分泌を促進します。	☐ アナグリプチン ☐ アログリプチン ☐ サキサグリプチン ☐ シタグリプチン ☐ テネリグリプチン ☐ ビルダグリプチン ☐ リナグリプチン ☐ オマリグリプチン ☐ トレラグリプチン	便秘 等
	GLP-1受容体作動薬 GLP-1受容体に作用することによって、血糖に応じて膵臓からのインスリン分泌を促します。	☐ エキセナチド ☐ セマグルチド ☐ デュラグルチド ☐ リラグルチド	便秘、吐き気 等
	GIP/GLP-1受容体作動薬 「GIP/GLP-1受容体作動薬」では、GLP-1受容体に加え、GIP受容体にも作用します。	☐ チルゼパチド	

配合薬	☐ アナグリプチン + メトホルミン	☐ シタグリプチン + イブラグリフロジン
	☐ アログリプチン + メトホルミン	☐ テネリグリプチン + カナグリフロジン
	☐ ビルダグリプチン + メトホルミン	☐ リナグリプチン + エンパグリフロジン
	☐ ピオグリタゾン + メトホルミン	☐ アログリプチン + ピオグリタゾン
	☐ ミチグリニド + ボグリボース	☐ グリメピリド + ピオグリタゾン

※「α-グルコシダーゼ阻害薬」と「速効型インスリン分泌促進薬」は「食後高血糖改善薬」にも分類されています。

※糖尿病治療薬を併用する場合、特に「インスリン」や「スルホニル尿素薬」と併用する際には、低血糖に注意すべきです。

施設名



提供: 日本ケミファ株式会社

2026年9月
611 ㊟